

第30回

うつのみやこども賞だより

平成25年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『林業少年』

堀米薫／著（新日本出版社）



～読んだ本の感想より～

- 主人公が様々な「事件」を通して本当の「木と自分」の大切さを見つけていく感動と、所々で話の内容がリンクしていく部分のおもしろさの二つが丁度良くあい、読みがいがあった。
- お姉ちゃんの楓が起こす行動がドキドキした。
- 林業の専門用語では無い部分がとても読みやすかった。
- 喜樹が「山びこが聞きたい」と思ったのは、山が好きになってきて、山の神様にあいさつをしたかったからではないかと思う。
- 苗を植えるのは大変だけど、力を合わせることが出来たのでよかった。
- 森の木によって、少しずつ物語の中心が変わっていくところがおもしろかった。
- 「百年すぎ」を見たいと思った。

『初恋日和』 佐藤佳代／著（岩崎書店）

- 人前に出るのがはずかしかった主人公が、積極的にいろいろなことをするようになったところがすごい。
- 美咲の恋の様子が本を通してつたわってきて、なんか心の中がうずうず？する。
- 人生はそんな甘くないなと思った。
- 心理描写がこと細かでおもしろかった。
- 美咲が「好き」といった後、伊藤くんが何を言ったのかが気になります。

『天狗ノオト』 田中彩子／著（理論社）

- 天狗の気持ちが書いてあって「こんな風に天狗になったんだ。」という事が分かりおもしろかった。
- 少しずつなぞを解いていくのがおもしろい。
- 宇都宮の身近な山に本当に天狗がいるのではないかと思いながら読みました。
- 勇気があるなぁと思った。
- 木三太は巢の器になった後、どうなるのだろうと思った。

『みんなの家出』 藤田のぼる／著（福音館書店）

- 最後のおまけを2回よく読むと山中先生の2度の家出の違いから、家出についての教訓がよく分かってスッキリした。
- 主人公が作者に質問するなんておもしろいなおもいました。
- 作者に手紙を出し、返事が返ってきておどろいた。わたしもためしたい。
- 作者に手紙を出して作者も分からないのは、読んでいる人に考えてほしいからではないかと思いました。
- フミの手紙の内容がじんわり心にしみてくる。
- なんでさし絵がつるとかめ？

2013年8月 4日